

演劇

唐十郎

持続可能な

SUSTAINABLE
~~HARADA!!~~

生誕80周年
シンポジウム

2020.3.15.SUN



はじめに

1960年代に出発した唐十郎の演劇は、今なお現代の観客に熱い支持を受けています。

唐十郎の代名詞とも言うべき紅テントは、1967年に初めて新宿花園神社に出現して以来、一貫して唐独自の劇世界を生み出してきました。紅テントは世界的にみても類例のない仮設劇場であり、この空間でこそ唐世界は躍動するのです。

21世紀になって、時代はSNSなどますますテクノロジーが促進され、生身の肉体を使う演劇は、ずいぶん重たい表現に映し出されるようになりました。しかし「この時・この場」でしか成立しないライヴ性は、今まで以上に貴重な経験を観客と共有されるでしょう。唐十郎の言語とそれを舞台上に現前化する俳優の肉体は、演劇の一回性の体験を力強く刻印するものであり、決して色褪せる事はないのです。現代演劇は唐十郎によって切り開かれたといつても過言ではありません。

今回のシンポジウムでは、唐十郎作品について演出家らを招き、今後も持続していく唐十郎演劇についての可能性や未来を語り合います。また唐組の役者によるリーディングもあり、唐世界を多角的に検証する機会を作りたいというのが、今回の企画の主旨です。

芸術学科 演劇身体表現コース 西堂行人

出演者



巖谷國士



久保井研



金守珍



山内則史



藤井由紀



福本雄樹



西堂行人

1943年東京生。仏文學者評論家・作家。
60年代からシユルレアリストの研究・実践を始め、広汎な活動を続ける。瀧澤龍彦を介して唐十郎を知り、
状況劇場初期から交友。
著訳書に『シユルレアリストとは何か』『ナジャ』ほか多数。

1962年、福岡県出身。
89年に唐組入団。
90年『透明人間』で演出
助手を務め、97年の再演
では初演出。外部演出では
『少女仮面』(10年)など、
2012年以降の唐組公演の演出担当。『ビニールの城』等。

蜷川スタジオを経て、唐
十郎主宰「状況劇場」で
俳優として参加。1987
年に新宿栗山治を創立、
演出を手掛ける。
近年は唐十郎作『唐版・
風の又三郎』『蛇姫様』
『少女都市からの呼び声』
等を演出する。

1964年青森生まれ。
84年、花園神社で状況劇
場「おちよこの傘持つ
メリーポピンズ」(再演)に
決定的衝撃を受ける。
読売新聞では文芸、演劇が
専門で、2008年に唐十郎
初の新聞小説「朝顔男」を
担当。DVD「演劇曼陀羅
唐十郎の世界」では構成、
聞き手を務めた。

1971年、埼玉県出身。
95年に唐組入団。
多くの作品でヒロイン役を
演じる紅テントの看板女優。
代表作は『泥人魚』(03年)、
『秘密の花園』(16年)、
『ビニールの城』(19年)など。
2017年、第25回読売
演劇大賞優秀女優賞受賞。

1993年、兵庫県出身。
15年に唐組入団。
2013年『糸女郎』に客演
し、翌年『紙芝居の絵の
町で』では主演を務める。
主演作は『鯨リチャード』
(15年)、『ビンローの封印』
(17年)、『ジャガーの眼』
(19年)など。

演劇評論家。2017年より明治学院大学教授。
著書に『演劇思想の冒險』
『ハイナー・ミラーと世界演劇』『韓国演劇への旅』
『現代演劇の条件』『劇的クロニクル』『証言:日本のアングラ』『唐十郎特別講義』他多数。近刊に『日本演劇思想史講義』がある。

タイムテーブル

12:00	開幕スピーチ 西堂行人
12:30-13:30	講演1 巖谷國士
13:30-14:00	唐組によるリーディング (藤井由紀、福本雄樹)
休憩	
14:10-15:10	講演2 久保井研
15:20-16:20	講演3 金守珍
16:30-18:00	シンポジウム (上記パネリストに山内氏が加わる)

場所 明治学院大学白金校舎
2号館 2401教室 12:00-18:00



目黒駅から
【JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線】
東口より都営バス「大井競馬場前」行きに乗り、「明治学院前」下車(乗車約6分)
※徒歩約17分

品川駅から
【JR山手線・京浜東北線・東海道線・横須賀線・東海道新幹線・京浜急行線】
高輪口より都営バス「目黒駅前」行きに乗り、「明治学院前」下車(乗車約6分)
※徒歩約17分